



特集

# こんにちは！栄養科です

栄養科科长 小島 麻記子 こじま まきこ

## 患者さんからの手紙が大きな励みに

私たち管理栄養士は、ミールラウンドを行い、患者さんが実際に食事を召し上がる様子を確認しています。調理スタッフとミーティングを行い、より食べやすい食事となるように努めています。患者さんから感謝のお手紙をいただくことも多く、日々の積み重ねが信頼につながっていると実感しています。だからこそ、管理栄養士がいらっしゃらない提携医療機関の先生方にも、ぜひ当院を積極的にご活用いただければ幸いです。お困りのことがあれば、私たちが責任をもって栄養相談を行います。

栄養科主任 新谷 具士 しんかい ともひと

## 多角的な視点で行う栄養サポート

病態を正確に把握するため、入院時にはフィジカルアセスメントを行っています。例えばむくみがある場合、体重変動や筋肉量の減少、水分量の変化など原因を見極め、病態を全体像として捉え、栄養面でできることを検討します。また、時には輸液管理の提案をすることも。これを管理栄養士が行うのは珍しいと思います。最終的には医師が決定しますが、多職種で意見を出し合うことで、1つの病気に対して多角的な視点で取り組んでいます。



エムサービス株式会社  
マネージャー 佐々木 安央 ささき あお

## 「食べる楽しみ」を届ける給食

お肉やお魚は種類・部位によって塩分やタンパク質の量が異なるため、日々試作を重ねて工夫しています。また、入院中の患者さんには毎日の食事に加えて、月に1回の「イベント食」を企画し、季節にちなんだメニューを提供しています。「今日のメニューは好評だったよ」などの声は、私たちにとって大きな励みです。栄養バランスや嚥下の状態に配慮しつつ、「食べる楽しみ」を大切に給食づくりをこれからも続けていきます。

栄養科 小林 葉子 こばやし ようこ

## 院内での徹底した情報連携が強み

当院では、患者さんが入院する際に管理栄養士が食事の詳細な聞き取りを行い、医師や病棟スタッフに共有する体制が整っています。徹底した情報連携は当院の大きな強みで、支援により常食へ移行して退院された例もありました。それまで経口摂取が不可能だった方が食べられるようになることは、ご本人やご家族の一番の望み。希望が叶った瞬間に立ち会えることは、私たちにとっても大変喜ばしいことです。



3月のイベント食で提供した手まり寿司も、佐々木さんの力作

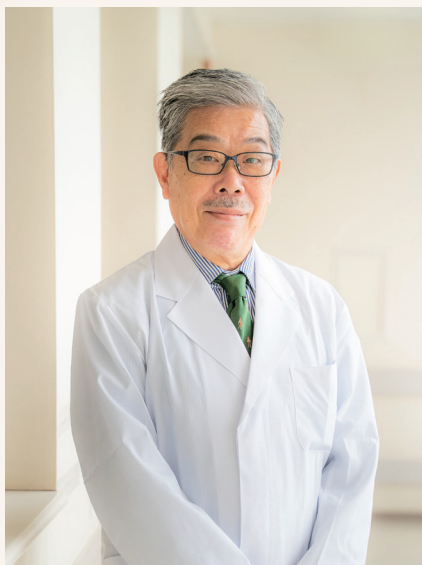


患者さんの笑顔を思い浮かべて調理しています！

## 医療機関の皆さまへ

当院では、退院後のフォローアップや他の提携医療機関との連携のために「栄養情報提供書」を積極的に発行していますが、他院から受け取る件数はまだ少ない印象があります。より迅速な栄養介入につなげるため、互いに情報連携を強化していきましょう！

# 病院長 新年のご挨拶



速さと行動力、そのための  
エネルギーと情熱を持って  
より良い地域医療を  
提供してまいります

取手北相馬保健医療センター医師会病院  
病院長 鈴木 武樹

新年明けましておめでとうございます。先生方におかれましては、旧年中は、患者さんのご紹介や、医療機器の共同利用等で大変お世話になりました。改めまして御礼申し上げます。

さて今年は、<sup>うま</sup>午年であります。馬の特徴としましては、①速さと行動力、②情熱とエネルギー、③自由と冒険心、④社交性と親しみやすさなどが挙げられます。厳しい医療経営状況のもと、今春には2年ぶりの診療報酬の大幅改定が行われます。現時点では、いろいろな情報が錯綜していて正確なところは不明ですが、少なくとも現状より良い方向に向かうことを希望しています。いずれにせよ、それらに対応する速さと行動力が求められ、そのための情熱とエネルギーが必要と考えています。また、病院が硬直した後ろ向きの姿勢になることなく、柔軟な自由と冒険心を持ち続けることも大切です。もちろん当院の特徴でもあり、病院理念にもうたっている、患者さんに対して明るく社交性と親しみを持って接し、「受診して良かった」という思いで帰宅していただくことは、継続して目標としていきます。

より良い地域医療の提供のため、あらゆる困難を蹴飛ばしながら先生方と進んでいきたいと思っておりますので、今年もご指導、ご協力をお願いします。

# 副病院長 新年のご挨拶



副病院長 循環器センター長  
渡邊 寛

## かかりつけの先生方と最先端医療を結ぶべく、 力を尽くしてまいります

取手市医師会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、皆さまからの多くのご紹介並びに温かいご支援を賜り、無事に年を越すことができました。改めて心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、従来と同様にペースメーカー手術や深部静脈血栓症に対する処置に尽力いたしました。ペースメーカー診療では、植込み・交換ともに増加し、年間で40件の手術を行うことができました。また、ME部門を2名から3名に増員し、遠隔モニタリングを強化したことで、患者様の受診負担を軽減することができました。血管エコーにつきましても、臨床血管診療技師 (CLINICAL VASCULAR TECHNOLOGIST : CVT) が3名常勤で勤務するなど、スタッフの増員を経てさらに充実してまいりました。社会の高齢化が急速に進み、骨折や脳梗塞症例における血栓症が増加していますので、これに対応すべく診療体制を一層強化してまいります。

また、高齢者の慢性心不全の増加は現実のものとなっており、天候不順も続いていることなどから、急変のリスクが増大しています。つきましては、筑波大学循環器内科の石津智子教授や山本昌良講師をはじめとする心不全グループと相談し、対処システムの構築を進めているところです。同時に、筑波大学が推進する心不全対策のサテライト講演会も設置してまいりました。日本循環器学会が推進する「心不全療養指導士」に加えて、特定行為の看護師の養成も進んでいます。これは、医師の指示のもとカテコラミンの増減や血液ガス採取なども行えるほどのプロフェッショナルであり、私たちはこの専門性を活かした「看護師主導の患者さんケア」プロジェクトを一層進めてまいります。そのほか、私が日ごろから大変お世話になっている筑波大学心臓血管外科の平松祐司教授は、筑波大学附属病院長と副学長を兼任されるなど重職を担っておられますが、当院はこうした先端医療施設である大学病院群との連携を一層深めつつ、かかりつけの先生方と最先端医療を結ぶべく、共に力を尽くしてまいります。

相変わらず COVID-19 もインフルエンザも猛威を振るっています。寒暖差も大きく、循環器疾患とともに発症・増悪しやすい時期でございます。ご多忙な会員の先生方もどうかご自愛ください、お健やかに過ごしていただけますよう心よりお祈り申し上げます。

## 病院からのお知らせ

### 10月にハロウィンメニューを提供しました



栄養科では、季節のイベントに合わせたお食事を提供しています。10月にはハロウィン特別メニューをお出ししました！

オバケやパンプキンをかたどったスライスチーズをのせたオムライス、ハロウィンの色どりにしたサラダ、やさしい味の汁物、カボチャのプリンにメッセージカードを添えた特別メニューで、患者さんに大好評でした。

### 取手市医師会忘年会を開催しました

去る12月10日、柏クレストホテルで取手市医師会忘年会を開催しました。院内の部署間はもちろん、他の医療機関や、地域との連携の強化を目的に開催しているもので、コロナ禍で中止して以来、6年ぶりとなりました。ご来賓の方々にもご臨席いただき、日々のご協力への感謝の気持ちを込めての開催となりました。



病院長と、取手市医師会忘年会実行委員会の大抽選会の様子



#### ■ ホームページのご案内

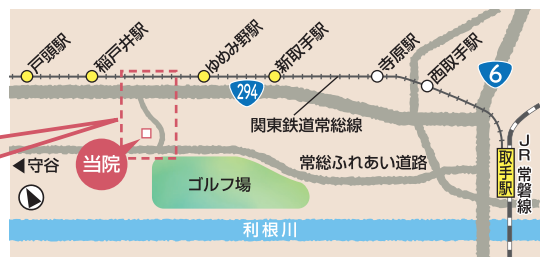


<https://www.ishikaibyouin.or.jp/>

スマホ・タブレットにも対応しています！



#### ■ 交通アクセス



- 取手駅西口から車で約11分。
- 取手（東口・西口）、新取手、ゆめみ野、稲戸井、戸頭の各駅からは送迎バスがあります。
- 常総ふれあい道路・国道294号線には案内板が出ています。案内板で曲がると、あとは道なりです。
- 当院は、TAC取手グリーンスポーツセンターの向かいにあります。

連携室だより「こころ」第50号 令和8年1月発行

公益社団法人取手市医師会 取手北相馬保健医療センター医師会病院 医療連携室

〒302-0032 茨城県取手市野々井1926

TEL/0297-78-6183 (直通)・0297-78-6111 (代表) FAX/0297-78-6184 (直通)

受付時間/平日 8:30~16:30・土曜日 8:30~12:00